

## 第32回 DAAS運営委員会 議事要旨

1. 日 時：2016年6月16日(木) 午後2時00分～午後3時30分  
場 所：公財) 建築技術教育普及センター内第7会議室  
東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル3階
2. 出席者(敬称略 順不同)  
運営委員長：竺(建築学会)  
委 員：本多委員(山下設計)、今倉委員(日建連)、真木委員(建築学会)、  
三塩委員・山田氏(日本設計)、原田委員(住団連)、鈴木委員(日事連)、  
早川委員代理安生氏(日建設計)、森委員(BCJ)、  
事 務 局：武藤
3. 配布資料：  
資料1 補助金活用事業報告  
資料2 部会での検討事項報告  
資料3 第11期理事・役員の任期満了、運営委員長交代について  
資料4 事業計画について
4. 議事：  
事務局より報告及び検討事項に入る前に運営委員の交代について報告を行った。  
一社)住宅生産団体連合会の委員が末富委員から 原田委員に  
一財)日本建築センターの委員が青木委員から森委員にそれぞれ変更。  
(また、運営委員会終了後、日本建築センターは森委員から武井委員に変更)

### ■ 報告事項

#### [議案1] 補助金活用事業報告/企画運営部会活動報告

資料1に基づき2016年3月に完了した平成27年度補助金活用事業の報告と説明を行った。続いて、企画運営部会の活動報告を行い、部会での検討事項「事業推進チームの設置の件」「DAASデータのオープン利用にむけた著作権整理の検討」については資料に基づいての説明、会員退会等の問題、法人化についての問題については、竺運営委員長より、口頭にて補足説明を行った。

尚、議案1, 2の報告終了後、補助金活用事業の成果であるオーラルアーカイブ及びVR映像をそれぞれ試聴した。

#### 【以下、意見等】

(三塩委員)企画運営部会で議論をすることで問題点がまた明確になった。またそれを書面に

整理して初めて委員会に提出した。DAAS は現在のコンテンツを守りながら、システムを活用していくという使命感もある。現状どのような方策が良いかを検討している。10月の第11期総会では、今後どうしていくか議論する場にしたいと考えている。そうでなければ議論の繰り返しになってしまう。企業がどうみているかという、会費が高く、メリットが見えない、ということ。CSR として見守って維持していく使命感も会員にはあるが、本当は少し負担を減らしていきたい。そこに向かうためにどうすれば良いかということを実際に考えたい、という議論を部会で1年続けてきている。第11期の目標として何を掲げるかを議論していきたい。何を選択するか、というところがこれからの議論だと思われる。

(笹委員長)この一年で選択肢を明確にして、いくつか提示し国交省と相談しながら進めていきたい。

(三塩委員)国費が入っているものの権利については明確になった。これを前提に現在の国交省がどう考えるか、働きかけていきたい。

(笹委員長)DAAS の設立当時と状況も変化してきている。湯島の国立近現代建築資料館も一つの機関として順調に発展してきている。またJIAのアーカイブスもNPO法人による運営も進めてきている。役割分担をしながら動いていけるのではないかと、という方向性が出てきている。もちろん建築学会の建築博物館もある。データを収集しているのは DAAS なので、お互いにこの日本の建築アーカイブを補完しながら将来は日本の建築アーカイブとして進めていけるのではないかと考えている。国交省から文科省、文化庁へ交渉して、連携という形もあるのではないかと感じている。

(三塩委員)デジタルを取り巻く状況はこの10年で著しく変化してきた。建築写真はもはやデジタルで存在しており、アーカイブしなくても良いと言うほどに広まっている。我々DAASが持っているデータは60~70年代のデータで、新建築が紙で焼いたものをデータにしたところにある価値があるが、今の写真にはその価値はない。設立当時に収集した6001点の価値はDAAS以外にない。それを将来につなぐということは大きい。それ以外の紙の資料についての問題、手書きの原図などは、資料館、JIA-KITなどで保存されているが、ハンドリングをよくするためにデジタル化をしておこうということが重なってきている。そのような時代の中で、DAASがやっていることはむしろ動画にシフトしてきている。動画が一般的になり、建築家にインタビューをして動画記録を残しwebサイト上で展開することができるサービスは魅力だと思っている。それがライブラリとなれば魅力的なコンテンツになると思っている。そこに軸足をおいて、ツールとして活かしてDAASを存続させる。皆さんにも意見をいただいて、負担のない形で出来ること、資料を維持すること、という骨格とそれを魅力的に見せ、他の団体に活かしてもらうという説明をする必要がある。

(森委員)あくまでも現在はその内容を企画部会の中で検討中ということだろうか。

(三塩委員)今後の選択肢は議論し尽くしたところがあるのではないかとと思われる。統合・連携・継続・解散等々。

(笹委員長)解散と言うことは選択肢として並べているが、可能性として書き出しており、それを

含めて国交省に相談する必要がある。発展的に存続する方向で道筋をつけていきたいと思っている。設立当時に国費で保全した資料のバйдール契約等についても今一度確認したい部分もある。法人格については一番のネックになっているというところは感じている。

(森委員)コンテンツとシステムをまず残す、というところが大前提としてあって、その為にはどういう体制があり得るかというところで、そのときに DAAS の法人化が一番よい選択だということではないかと思うが、それが出来ない場合、その他の選択肢は国がどう判断するかということかと思われる。不確定要素が沢山あるのでまず何を決めるかという部分から判断して頂くことになるのではないだろうか。

(事務局)法人化の可能性が低いということだが、DAAS が法人化する場合も、コンソーシアムという組織を一旦解散という形になる。コンソーシアム解散と法人の発足という形になる。

(森委員)一番の問題は国が法人化するかしないかを曖昧なままにしているところで、法人化の可否を前提にそれぞれ動いてもらわなければいけない、ということではないか。

(笠委員長)そこは国交省側、DAAS 側としっかり詰めて話が出来ていない。後期はまずそこをはっきりさせたい。

(三塩委員)委員会は年度内であと一回、企画運営部会は二回程度の開催になるだろうか。

(笠委員長)企画運営部会で問題点は洗い出している。部会での議論を踏まえて今後の活動を検討していきたいというところである。

## [議案2] 第 11 期理事・役員の任期満了、運営委員長交代について

議案2について事務局より、資料の読み上げと説明を行った。

会費と予算設定に関しては、別紙1の収支シミュレーションの内容も併せて説明を行った。

予算設定と会費規程改訂に関する企業理事の会費設定については、企業理事を選出する会員の委員、その他委員より、会費減額について賛同の意見があがった。

第11期総会議案、総会資料については、次回運営委員会の審議事項となるため、事前に運営委員会での議論と委員からの意見が必要として、委員の意見を確認した。

理事長、副理事長、及び監事も含めた役員案は、国土交通省との調整も必要な事項であるため、次回運営委員会までに国土交通省と調整をして資料を提出することを事務局より説明した。

## 【以下、意見等】

(笠委員長)役員交代については、国交省の意見もあることなので、相談の上で役員案を作成する、ということになる。私の名前が出ているが、コンソーシアムという組織上、建築家の方、企業の方が理事長であることが望ましいと思っている。暫定的にということであれば、半年、一年という期限でと考えている。

(三塩委員)これまでの状況、直面している事情を理解している方が理事長となるのがよいと考

えている。設立時に声をかけた建築家に参加頂き、榎理事長後、鈴木博之先生、その後芦原先生に JIA 会長としてではなく個人として理事長のお願いをした。第 11 期が非常に難しい時期であるため、笠先生に暫定的にお願いする案もあると考え推薦した。運営委員長については本多委員に是非お願いしたいと考えている。いずれにしても時間を区切りながら今後の DAAS についても検討する必要があると考えている。

(事務局) 副理事長と監事については、国土交通省の意向によるところが多いこと、また各団体の持ち回りをお願いするということで進めて頂いていた。事前に国土交通省より内諾を頂けるかどうか、各団体に打診があるかと思われる。また減額の希望、理事退任の希望があったが、理事会員3社のうち2社が理事会員を辞めるということにするか、理事は継続し、会費規程自体を改訂、理事会員3社とも二口を一口にするか、という議論についてはいかがだろうか。理事会員で運営委員選出の日本設計、日建設計の方に伺いたい。日建さんはいかがだろうか。

(安生氏) 理事を継続する、しないの希望は特になく、会費負担を少なくしていただけると助かるということである。

(笠委員長) 一口となると相当な減収になる。ただ理事会員がいないということになるのは困る。

(三塩委員) 理事を辞めたいという意志ではなく、会費二口の減額を希望している。ゼネコンなど理事であった会員に依頼するなどもあるかもしれないので、国土交通省に相談事項かとも思われる。

(事務局) 退任された理事会員は、設立当時から自社のアーカイブ整備も進んでいないので、という話もあり、設立後数年で理事退任の希望があった。希望があるごとに、国土交通省、三塩委員(当時運営委員長)、理事長が説得に伺ったという経緯がある。

(三塩委員) そうなると会費規程の変更と言うことになるのではないか。

(事務局) 団体理事は現在も一口であるので、同様に企業理事の会費を変更ということになる。

(森委員) 確認だが、会費を二口から一口にした場合の予算は。

(事務局) 予算設定も変更することになると思われる。来期は補助金活用事業があるため、単年度赤字ということにはならないと思われる。

(森委員) 次回、総会前の委員会審議事項となるため、それまでに国土交通省との相談と言うことになるのだろうか。

(事務局) そのようになると思われる。

### [議案3] 第11期事業計画

資料4に基づき、第11期事業計画を次回運営委員会までに企画運営部会で検討し、提出する予定であることを事務局より説明した。

**【以下、報告についての補足説明、意見、等】**

(三塩委員) 補助金活用事業の年度はどうなるのだろうか。

(事務局) 交付決定が年度途中のため、次年度の3月までの執行となる。

(三塩委員) 別紙1にある会費変更についてのシミュレーションの資料については、バックデータとしてはあるが、総会に諮る資料としてはここまでの資料は用意しないということによいだろうか。仮に日本設計が一口となり、予算規模を縮小した計画を出さなければならない。そこで、赤字予算計画書を出すかどうか。まだ時間はあるが、そのあたりを検討し直す必要がある。支出の A～D までとあるが、いずれかを選択するということだけではなく、詳細の案をつくるということだろうか。

(笠委員長) 会費収入が決まった内容で、出来る予算を作成する。この事業を中止する、縮小する、などを諮らなければいけない。苦しい事情であることを理解してもらう必要がある。

(三塩委員) 国土交通省に 300 万の補助金活用事業が必須だということも理解してもらう必要がある。9月までに具体的な総会資料を詰めるとすると、その前の議論が必要である。総会は10月の下旬だろうか。

(森委員) 次の委員会はいつだろうか。

(事務局) 9月末に予定しているが、詳細は別途日程調整をする予定である。

以 上